

24年度の主な取組実績

鳥獣被害対策本部の開催

- ◆2回（5月16日、10月18日）

重点支援地区設置による対策のモデルづくり(10地区)

- ◆集落ぐるみによる防護対策(7地区、柵4.2km)
- ◆カラスの追い払いなど地域特有の課題解決(3地区)

鳥獣被害対策推進月間(11月)における普及啓発

- ◆スローガンの設定：「集落の絆で防ごう 鳥獣被害！」
- ◆啓発パンフレットの作成、配布(15万部)
- ◆鳥獣被害対策フォーラム、現地研修会(計15回)

特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)の変更

- ◆個体数調整を目的とした捕獲を可能に
(平成23年度捕獲実績以上を捕獲する体制を整備)

その他

- ・岐阜大学鳥獣対策研究部門の設置(5月)
- ・獣肉利活用に関する意見交換会(3回)
- ・ドライアイスによるカワウの繁殖抑制(5~6月)
- ・長野県と連携したニホンジカの動向調査(7~8月)

25年度の主な取組

1. 地域住民による対策実行組織の育成

対策をけん引する農業者リーダーを育成し、地域ぐるみで対策に取り組むための実行組織の立ち上げを支援

集落の絆で防ぐ鳥獣被害対策スタートアップ支援事業
(県単、2,200千円)

◆リーダー育成研修会の開催

- ・各圏域30人(計150人)を育成

◆被害状況の把握への支援

- ・リーダーを中心に行う被害状況把握において、自動撮影カメラによる侵入状況等の情報を県より提供

◆対策プラン作成への助言

- ・地域住民による防護柵設置等の計画作成に対し、県より助言

集落ぐるみによる対策未実施地区

約1,280集落

(被害集落1,849集落の約7割)

※H23集落取組状況調査結果

毎年1割(150集落)
削減

H25目標：1,130集落

(被害集落の約6割)

2. 集落ぐるみによる「防護＋追払い」対策の推進

より効果的な防護対策を展開するため、鳥獣害対策監による現地研修会等において、新たな防護柵の設置と、地域住民による追払い活動を同時に普及

① 新型防護柵「猪鹿鳥無猿柵」の普及

いのしかちょうむ えんさく

◆従来の防護柵を改良し、より安価で、手軽に設置でき、多鳥獣種にも対応した新たな「猪鹿鳥無猿柵」の普及を促進

② 地域住民によるサルやカラス等の追払い

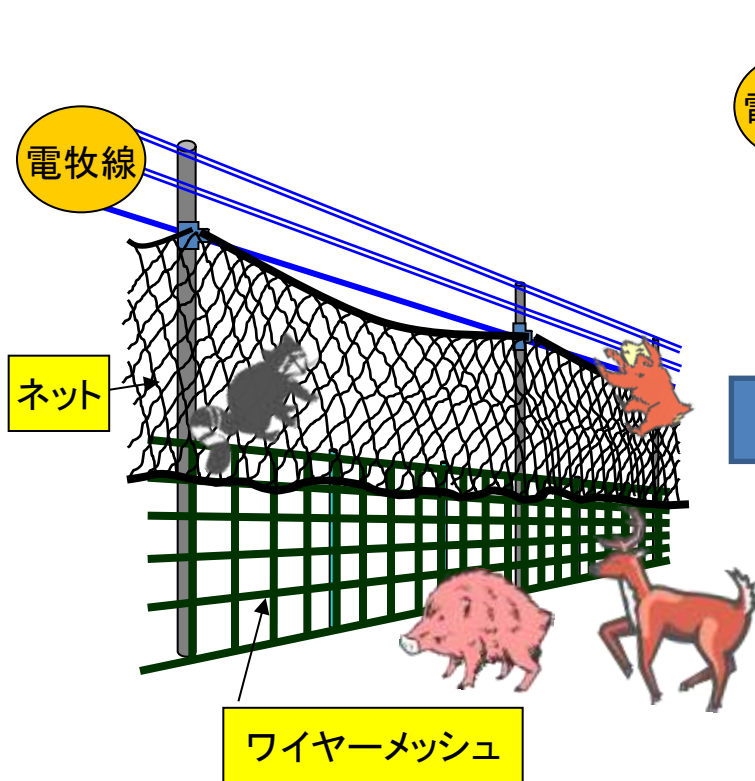
- ◆野生動物に対する人馴れ、餌付けを防止
- ◆ベストやロケット花火を使った追払い活動により、寄せ付けない環境づくりを促進

猪鹿鳥無猿柵(いのしかちょうむえんさく)の特徴

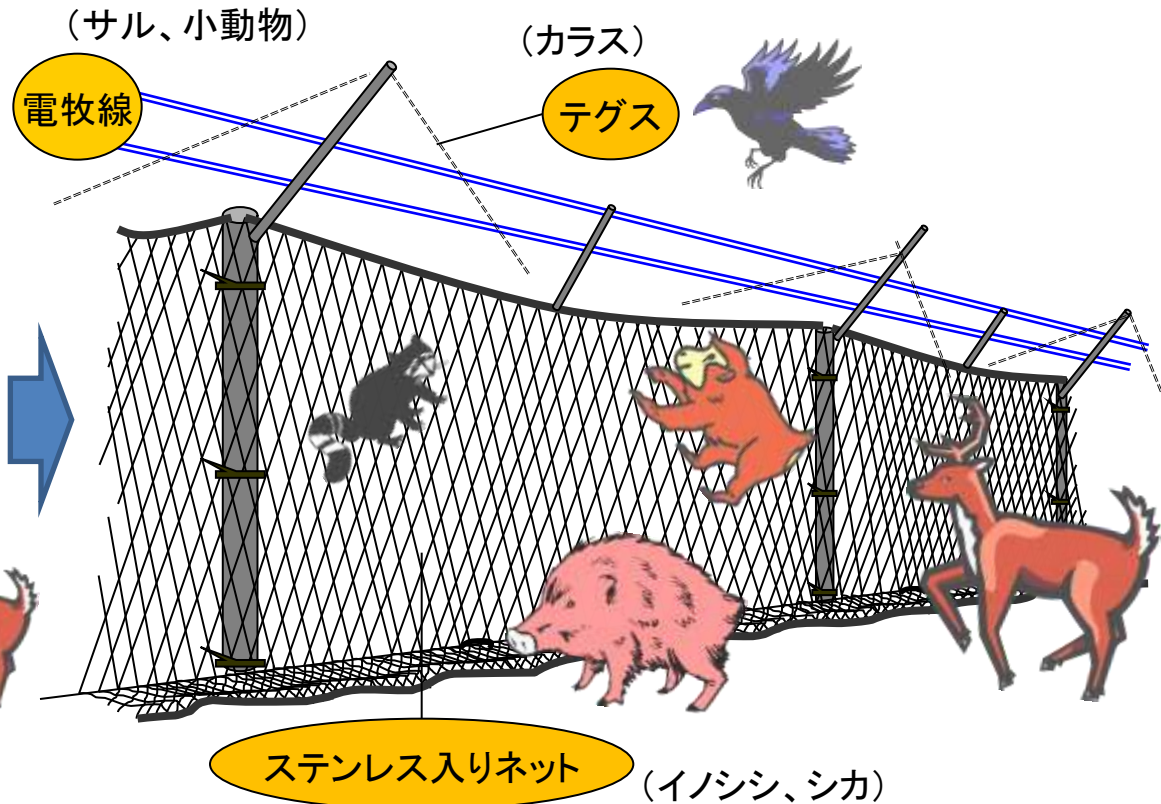
※従来型からの改良点

- 使用資材が少なく、低コストで軽量 ※経費は従来型より15%減、約1,260円/m
- テグスを張ることで、カラス対策へのバージョンアップが可能
- より短期で施工が可能 ※施工時間は従来型の3分の1、1kmあたり4時間(20人)
- 門扉の設置や冬期の取り外しが簡単

〔従来型〕 猪鹿無猿柵



〔最新型〕 猪鹿鳥無猿柵



追払い活動に役立つ道具

<ベスト>

- サル、カラスに対する威嚇効果が大
- みんなで着用することで住民どうしの絆も醸成
- 捕獲作業時の安全を確保



通称:「絆ベスト」

<ロケット花火>



通称:「退散鳥獣」(たいさんちょうじゅう)

※ロケット花火使用の適正使用については、市町村等へ文書により注意喚起を実施

◆絆ベスト

現在までに約250着を普及
(H25.4月末現在)

※農業者、市町村、農協、漁協、
県議会議員等が購入

3. 新たな重点支援地区の設置

※現状22地区、H28までに計50地区を設置予定

平成24年度

集落ぐるみによる防護対策

- ①山県市
- ②大垣市
- ③関ヶ原町
- ④関市
- ⑤御嵩町
- ⑥中津川市
- ⑦下呂市

地域特有の課題の解決

- ⑧岐阜市・・・小動物も含めた防護
- ⑨大野町・・・カラスの集団追払い
- ⑩飛騨市・・・緩衝帯設置による侵入防止

住民協働による防護柵の設置等を通じ、集落ぐるみによる対策への機運が向上

平成25年度

新たな地域におけるモデルの設置

- ①各務原市
 - ②関市(洞戸)
 - ③富加町
 - ④七宗町
 - ⑤多治見市
 - ⑥中津川市(福岡)
 - ⑦高山市(丹生川)
 - ⑧下呂市(萩原)・・・ 緩衝帯整備
- ・猪鹿鳥無猿柵の設置
・追払い活動の実施

※林政部による森林・環境税を活用した里山林の整備等も併せて実施

新たな地域連携のモデル

- ◎ 企業や地域住民と連携した防護対策・捕獲の取組み(2地区)

新たな地域連携のモデル

◆ 鉄道会社等との連携による対策の推進

※実施地区は調整中

- ◎ 東海道線等の沿線及び周辺農地における防護柵の整備、シカの有害鳥獣捕獲
- ◎ 高速道路への出没情報等の共有

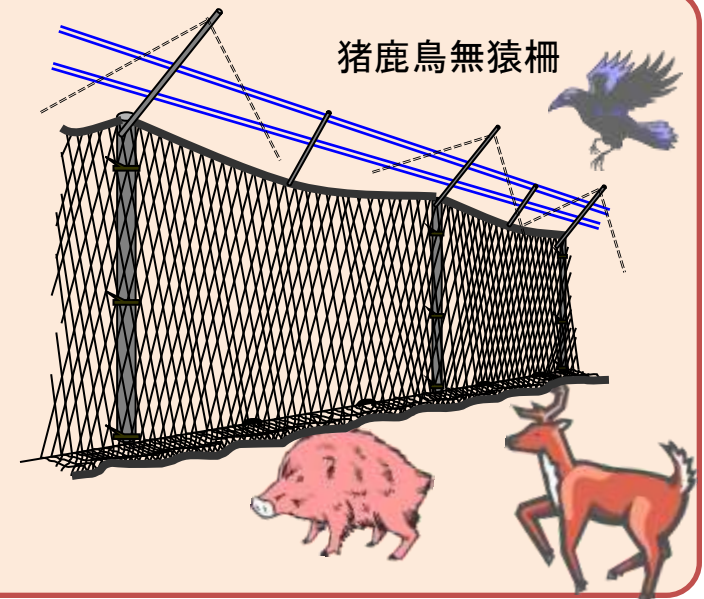


新幹線沿線での防護柵設置(H24 関ヶ原町)

◆ 森林と周辺農地の一体的なシカ対策

※実施地区は調整中

- ◎ 猪鹿鳥無猿柵の設置
- ◎ 餌場となる放任果樹・耕作放棄地の解消
- ◎ 有害鳥獣捕獲

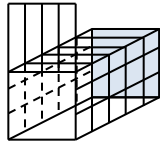


4. 有害鳥獣捕獲の強化

H24国補正予算を活用した捕獲の強化

基金造成 2.7億円（H25～H27の3年間）
（鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業推進交付金）

岐阜県鳥獣被害防止対策推進協議会
（構成：県、農業団体）



支援

市町村等



- ◆有害鳥獣捕獲の強化 ※イノシシ、シカを3年間で計約3万頭を捕獲
- ・捕獲従事者の活動経費として、1頭あたり8千円を上乗せ助成

<現行>

10,000円*

交付金8,000円を上乗せ助成

<H25>

18,000円

*10,000円は、市町村から捕獲従事者への
助成金(イノシシ)のH23平均単価

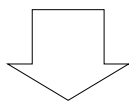
- ◆既存の防護柵のかさ上げ、延長

ニホンジカの個体数調整のための捕獲の推進（継続）

生息密度が高い地域での捕獲を推進

➡ 個体数調整のための捕獲に係る経費を補助
（報償費として♂5,000円/頭、♀10,000円/頭 など）

H24年度捕獲実績 郡上市、下呂市 合計1,362頭



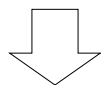
H25年度 拡大 大垣市、海津市、養老町、垂井町、
揖斐川町、郡上市、下呂市 において 目標:2,430頭



有害鳥獣対策従事者を確保を支援（継続）

➡ 狩猟免許所持者の減少に歯止めをかけるため従事者を確保
市町村職員の狩猟免許取得のための費用を補助
（講習会参加、銃猟免許取得の費用 など）

H24年度実績 1人（郡上市）



H25年度 増加 12人（中津川市、七宗町、白川村）

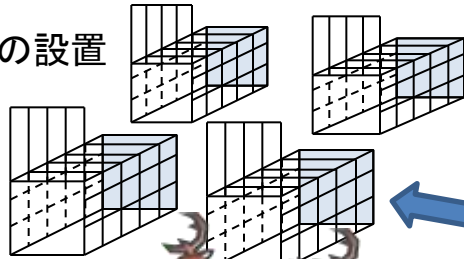


捕獲従事者と地域の人材との連携による 新たな捕獲体制(新規・モデル事業)のイメージ

地域住民の連携による捕獲体制の構築に対して支援
(わな、事務用品購入、指導者謝金など)



わなの設置



- ・わな設置手伝い
- ・わなの見回り
- ・えさの補充
- ・捕獲連絡など



集落内のわな免許所持者
(農家等)

地域の人材
(補助者)



捕獲後、止めさしのため
捕獲従事者へ連絡

搬送



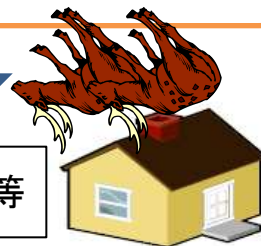
協力

捕獲従事者
(銃所持)

捕獲個体の止めさし
個体の搬送または処分

衛生的に処理できる
解体処理施設

焼却処理施設等



5. 岐阜大学との連携

寄附研究部門 研究課題

1 岐阜県の野生動物管理体制の課題と解決に関する調査研究

課 題	概 要	成果目標
捕獲個体の基礎データ収集・分析	個体群情報・遺伝的集団構造の解析	捕獲時期・頭数の適正化と被害予測
狩猟者アンケート調査	捕獲活動実態や意識を把握	捕獲従事者確保と捕獲体制の整備
被害対策・捕獲の効果測定	被害対策と被害状況の関連性解析	対策効果の判定と効率化への提言
自主的・継続的対策の体制整備	住民主導型対策の事例紹介・研修会	地域主導型の被害対策の体制構築
シカによる森林被害モニタリング	モニタリング手法の確立と統一	森林被害拡大予測と予防策提案

2 地域の野生動物管理を担う人材育成に関する研究と実践

課 題	概 要	成果目標
人材育成プログラムの開発	行政職員を対象とした技能研修	高度技能を有する専門家の育成
県民・児童を対象とした普及啓発	教育機関と連携して普及啓発	野生動物管理への市民の理解向上

平成24年度の研究成果から

捕獲個体の基礎データ収集・分析と被害予防 ～イノシシのサンプル収集および齢査定～

サンプル数	99
岐 阜	12
西 濃	12
中 濃	25
東 濃	24
飛 騨	26

(2013年1月15日現在)



有害捕獲個体 サンプル収集市町

年齢区分

捕獲月と臼歯の萌出具合から
0、1、2、3歳以上に分類

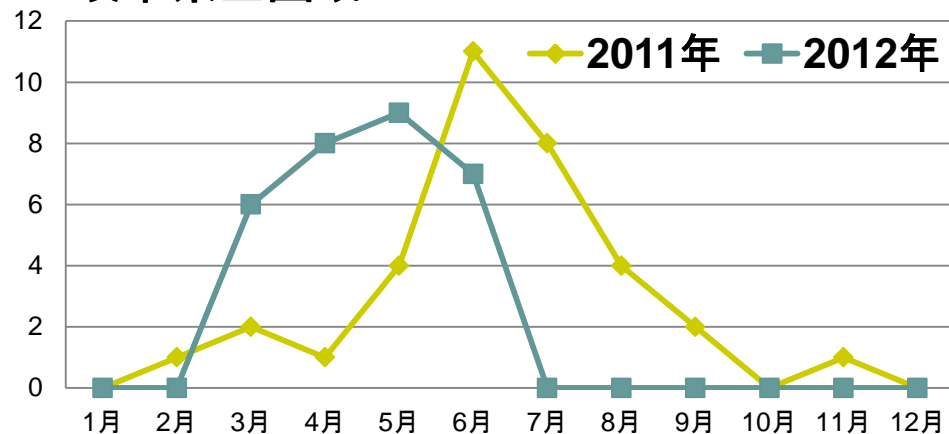


0歳	1歳	2歳	3歳以上
34	35	12	18

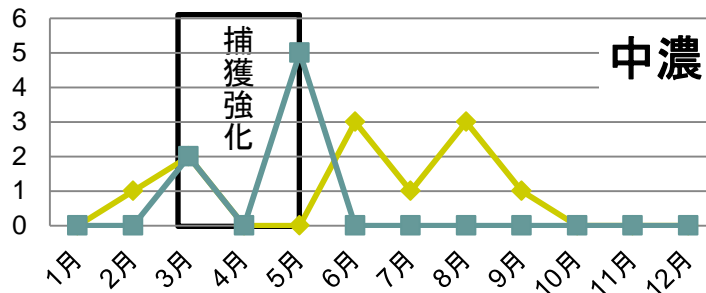
平成24年度の研究成果から

捕獲個体の基礎データ収集・分析と被害予防 ～イノシシの歯の萌出状況から出生月を推定～

岐阜県全圏域

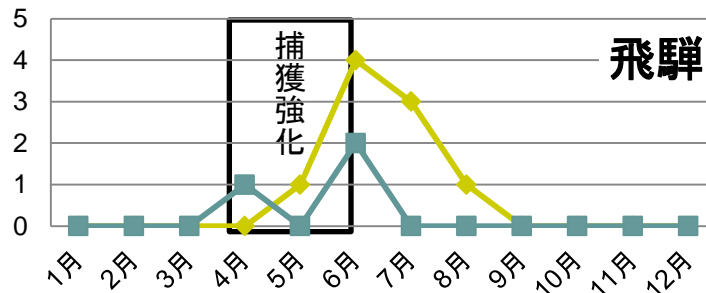
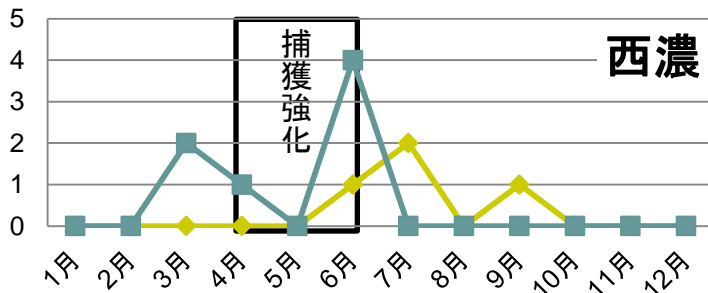
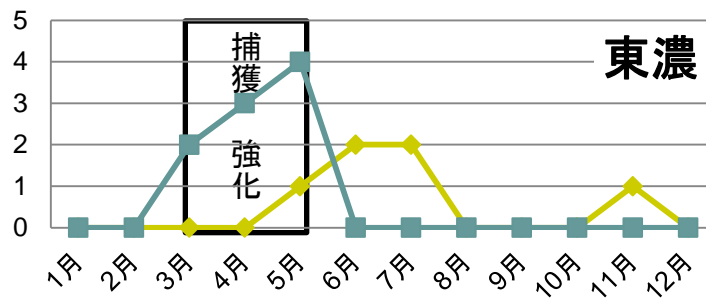
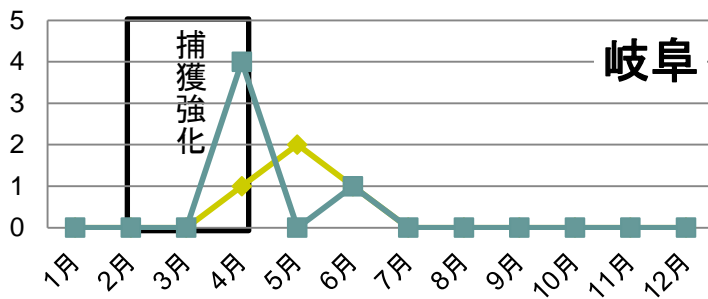


年次変化や地域性が示唆された



被害防止のための
効果的な捕獲
時期～例～

※期間を2ヶ月間と
設定



【備考:秋生まれ】
春～夏にウリボウのみを
捕獲したことが原因か

平成25年度の計画

<研究課題>

- ◆ **野生動物管理の現状と課題に関する研究(継続)**
 - ・捕獲イノシシの収集、分析と被害予測(モニタリング・DNA分析)
 - ・現地でのイノシシ等の出生年判断方法の研究
 - ・狩猟者意識の解析(現役・引退)とアンケート調査
- ◆ **シカによる森林下層植生への食害モニタリング**
シカによる森林下層植生被害の試験調査を実施し、調査技法を確立
- ◆ **効率的で安全な捕獲方法の開発**
農家や住民による捕獲を推進するために安全で効率的な捕獲法を開発
- ◆ **現地での被害防除支援**
新たな被害防止技術の導入および地域ぐるみの体制づくりの支援

<人材育成>

- ◆ **サテライトキャンパスでの「野生動物管理学」の講義中継(10月～)**
県における高度な専門的技能を有する人材の育成
- ◆ **教員免許更新講習における教員向け講習(8月)や出前講義**
教育者を介した野生動物管理に関する教育・普及

<普及啓発>

- ◆ **シンポジウム**
テーマ:「これからの狩猟と管理捕獲を考える」(5月18日)
- ◆ **野生動物管理学研究セミナー(2回)**
テーマ(案):「シカによる森林被害とその対策」、「ニホンザルの管理」
- ◆ **その他講習会**

6. 衛生ガイドラインの策定

安全でおいしい獣肉の供給に向け、衛生的な処理加工を行うためのガイドラインを策定

主な内容（案）

◆対象鳥獣：イノシシ、シカ

◆捕獲～加工までの処理手順

◆衛生管理のポイント

◆施設の構造 など

策定スケジュール

4月～6月

●ワーキンググループ
（庁内関係課）

6月～7月

●専門家からの意見聴取
（学識経験者等）

8月

●獣肉利活用意見交換会
（猟友会、食肉事業者、消費者等）

25年度上半期までに策定

- ◎狩猟者、食肉事業者等への周知
- ◎処理加工技術講習会の開催
- ◎料理教室の開催、料理メニュー開発、イベントでのPR
- ◎モデル施設の設置

7. 対策推進に向けた「ミナモ」の活用について（案）

「ミナモ」を活用し、“清流の国ぎふづくり”の一環として行う鳥獣被害対策の取組の啓発を図る。

◆活用計画（案）

- ミナモを「猪鹿鳥無猿隊」の広報に活用し、鳥獣被害対策推進月間（11月）に開催するフォーラム等で対策をPR
- イベントでのジビエ料理のPR
- パンフレット等へのミナモデザインの掲載 など